

有限会社オコッペフィードサービスの取組みについて

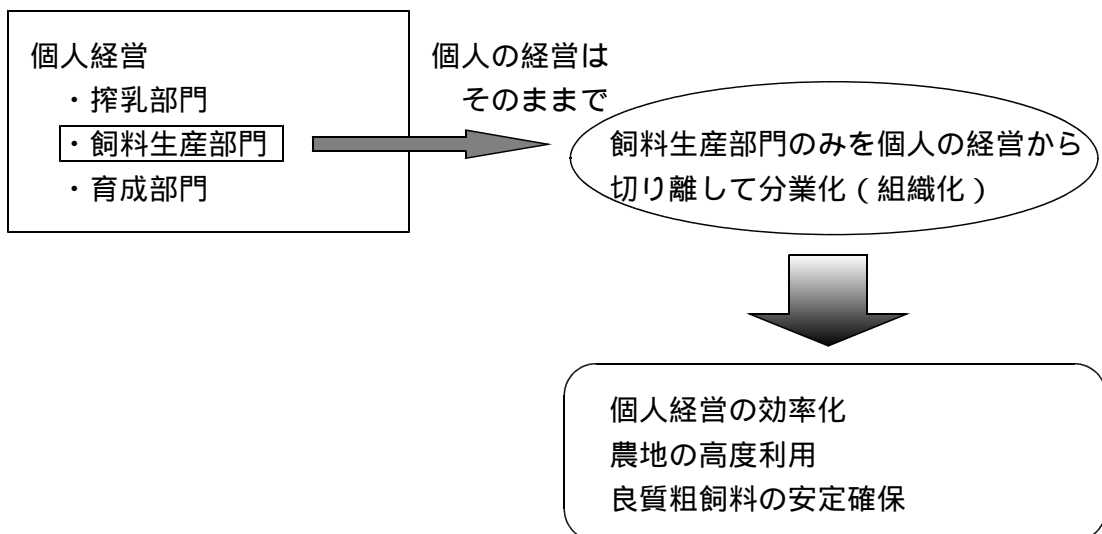
1 設立の背景と経緯

規模拡大により地域の生乳生産量は着実に拡大しているが、個々の農家では、労働時間の増加など様々な問題が発生

- ・規模拡大による労働時間の増加
- ・規模拡大により取得した農地が分散しているため、作業効率が悪いほか、堆肥の還元作業にも障害
- ・機械の大型化による機械経費の負担増
- ・機械利用組合が組織されているが、天候や作業順番などにより品質格差が生じることへの不公平感
- ・興部町の酪農経営

区 分	平成 5 年	平成 1 0 年	平成 1 6 年	備 考
酪農家戸数	1 4 0 戸	1 2 0 戸	9 8 戸	
乳用牛飼養頭数	1 1,6 0 0 頭	1 1,9 0 0 頭	1 0,9 0 0 頭	
2 才以上	6,9 0 0 頭	7,3 2 0 頭	6,9 2 0 頭	
飼料作物作付面積	6,5 6 9 ha	6,4 1 3 ha	6,2 8 6 ha	
生乳生産量	4 3,4 5 6 t	4 6,2 5 4 t	4 7,5 8 2 t	
1 戸当たり				
乳牛飼養頭数	8.3 頭	9.9 頭	1 1.1 頭	
2 才以上	4.9 頭	6.1 頭	7.1 頭	
飼料作物作付面積	4.2 ha	4.8 ha	5.7 ha	公共牧場を除く
生乳生産量	3 1 0 t	3 8 5 t	4 8 6 t	

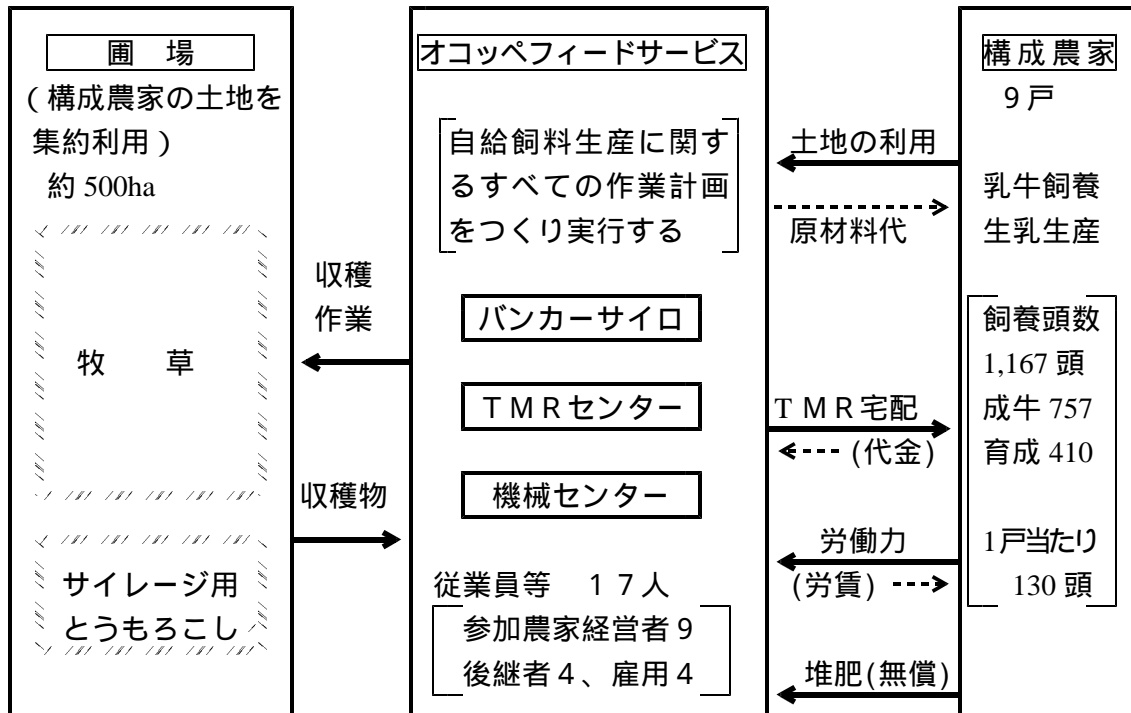
これらの問題を解決するため、興部町北興地区の酪農家全体で飼料生産のシステム化を協議し、賛同した酪農家 5 戸で、平成 1 0 年に自給飼料生産組合「オコッペフィードサービス」を設立。平成 1 1 年に有限会社化。現在の構成員は 9 戸。



2 取組内容と効果

オコッペフィードサービスは、草地管理に必要な機械一式を所有し、構成員の飼料畑（約 500ha）の管理全てを請け負い、収穫した飼料はバンカーサイロに一括貯蔵しサイレージを製造。サイレージに配合飼料等を加え、3種類のTMR飼料を調製し、構成員の牛舎に配送

- ・ 主要な業務は、飼料の収穫、草地の肥培管理・更新、TMRの調製・配送
- ・ 飼料の収穫は、構成員による共同作業（8時半～午後4時半、時給1,200円）
- ・ 収穫した飼料は、TMR原料として全量を買取る
- ・ TMRの調製は常雇用2人が行い、毎日、構成員牛舎に配送して販売する



サイレージの単位面積当たりの生産量は、着実に増加している。粗飼料の自給率100%を維持しながら、余剰サイレージの販売も行っており、粗飼料の地域内自給度の向上にも貢献している。また、草地の生産性の維持向上のため、草地更新を毎年30～50ha程度計画的に行うこととしており、平成16年の実績は50ha。

区 分	平11	平13	平15
飼料面積 (ha)	300	396	499
牧草	275	358	454
とうもろこし	25	36	45
サイレージ調製量 (t) (haあたりの調製量)	5,030 (18.1)	6,000 (18.3)	10,873 (21.8)
牧草サイレージ	4,291	5,927	9,204
コーンサイレージ	1,150	1,300	1,669

施設投資（平成10年）

施設・機械名	備 考
バンカーサイロ(11基) (1,000t × 2、800t × 4、 650t × 1、500t × 4)	自己資金
TMR 飼料調製庫(1棟)	自己資金
自走式ハーベスター(1台)	飼料生産対策事業(国費)
自走式ミキシングカー(17 m ³)	飼料生産対策事業(国費)
コーンプランター	飼料生産対策事業(国費)
車庫	北海道農業元気づくり事業(道費単独)
管理棟	北海道農業元気づくり事業(道費単独)
その他機械	
	(事業費 174,082 千円)

平成14年度には、事業規模の拡大に対応するため、自給飼料増産総合対策事業を活用し、自走式フォーレージハーベスター、ハイダンプワゴン、モアコンディショナー、スラリースプレッターを導入

オコッペフィードサービス(OF S)設立時に、構成員が所有していた作業機械をOF Sにリースまたは売却した結果、個々の経営の機械経費は大幅に削減された。

	平9(個人保有)	平12(会社+個人)
自走機械(トラクター、自走式ハーベスター、ファムダンプ等)	30台	21台
飼料収穫・調製(テグター、ロールバラー、ディスクハイン等)	71台	26台
圃場管理(フロントキャスター、パワーロウ、コーンプランター等)	29台	17台
糞尿処理(マニユアスプレッター、バキュームカー、フロントローダ等)	29台	20台
TMR調製(TMRミキサー、サイレージカッター等)	5台	2台
合 計	164台	86台

構成員の労働負荷の大幅な軽減、良質粗飼料の安定的確保による1頭当たり乳量の増加のほか、乳牛の疾病の減少、構成員所有機械の処分等により生産コストの低減が図られたことなどにより、構成員の経営状況は大きく改善された。

3 全道への効果の波及

設立から6年が経過し、飼料自給の安定、経営の改善等に大きな成果を上げているが、今後の展開方向としては、飼料自給率の維持・向上を図りながら、構成員が生乳生産部門に特化し増頭することが可能な環境をつくるため、構成員の育成牛の飼養管理を行うことを検討している。

オコッペフィードサービスの取組みが契機となり、その後、道内各地で本方式を基本としたTMRセンターが設立されており、現在、9つのTMRセンターが稼働している。